

nouvelle Fontaine

発行日 2017年 1月15日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

まだまだ、夢の途中

自主制作映画「祭に咲く花」監督 泉原 航一



1987年 8月15日に岸和田で生まれました。今年で29歳になり、ゆとり第一世代と言われる世代です。僕は今、東京で映画の助監督をしています。20歳で上京したので、東京生活もそろそろ10年目になります。

【映画監督にでもなろうかな】高校生の時、ふと思いました。「岸和田少年愚連隊」という映画を観て、なぜか分かりませんが「映画監督になろう！」そう決心しました。決心はしたものの、何をしたいか分からず、決心だけした感じでした。そして大阪芸術大学短期大学部に入学しました。

短大ではもちろん遊べるだけ遊びました。2年はあつという間でした。進路を考えている時に東映撮影所で仮面ライダーの助監督を募集していると学校に連絡があり、それを聞いて迷わず「行きます！」と言いました。そして仮面ライダーの助監督を、1年間やりました。いろいろなドラマ撮影の仕事をしている中で、とにかく映画がしたいんだ！と思う様になり「井筒監督の映画の助監督をしたいです」と、周りに言う様になりました。すると、上京して3年目に、井筒組の助監督を紹介をしてもらいました。そして24歳で、井筒監督作品に携わり、25歳になって、自主制作映画「祭に咲く花」を作る事が出来ました。

僕は自分で、ルールを決めていました。25歳で、自主制作映画でもいいから映画を一本撮る事。30歳で商業映画を一本撮る事です。映画監督になれるのは、一握りしかいないのは、僕も分かっています。だから時間を決めて、ダラダラしないように自分なりに、自分

を追い込みました。そうしないと、ダラダラするのが自分で分かっていたからです。そして25歳の時に、脚本を書きました。最初は「戦秋のツレ」というタイトルでした。短大の時の友達2人と、僕との3人で、10万円ずつ出しあって、30万円で映画を作る事にしました。撮影するにあたって、両親がかなり手伝ってくれました。町の人を紹介してくれて、紹介からの紹介もあって、当時の野口岸和田市市長にまで挨拶をさせてもらいました。映画を撮るのに、両親がいなければ、確実に諦めていました。撮影中のご飯は 母がおにぎりを作ってくれ、父はいろいろなツテで協力してくれました。撮影中は、警察が来て注意される事もあったし、エキストラがいないので、その日の朝に声をかけにいたり、撮る場所が決まってくなくて、その日の朝にロケハンに行ったりと、毎日が怒涛の日々でした。それでも何とか最後まで撮影出来て、編集もして、上映会をする事が出来ました。そしてなんと、賢島映画祭で準グランプリまで頂けました。

2016年。結婚して子供が生まれました。僕はまだ夢の途中ですが、新たな人生がスタートしました。僕は家族を大切に出来ない人は、夢も何も無いと思ってます。それは両親から教えて貰った事です。だから家族と夢とを大切にこの先も進んで行きます。妻と子と夢を大切に！そう、自分のココロに誓って日々精進します。まだまだ夢の途中ですから！

おく き たらう

奥喜太郎と富岡鉄斎(注)

奥 喜多郎

市内天神山の丘に、古代の忠臣とされる捕鳥部萬の碑があります。

明治28年(1895)に寄付を集めて「修繕増築」されたもので、趣意書の首唱者には佐々木 政父せいがいらと並んで奥 喜太郎、賛襄者には富岡 百鍊さんじょうしゃ(鉄斎の本名)の名があります。喜太郎と鉄斎はこの頃には交友関係にあり、喜太郎の死まで、お互いの家を行き来する家族ぐるみの交流が続きました。

喜太郎の父佐治兵衛は、幕末に綿の商売で財をなし、野村(上野・下野町)に広い地所を所有し、岸和田藩の金銭出納にも関係しました。父の跡を継いだ喜太郎は、明治・大正期に諸紙販売・印刷業を営むかたわら戸長、村会議員などを務め、足踏み紡糸機を考案し、玉葱の栽培も行うなど進取の気性にも富んでいたようです。

喜太郎は実業面だけでなく文化の面にも関心をもち捕鳥部萬の碑再建に関係した10年後の明治38年(1905)には「郡中一の都会なる岸和田街まちの賑いは岡部の藩の城下としてその面影も尚多し」(3番)「行基うがの穿ちし久米田池猶も南に進みなば忠義希なる捕鳥部(原文のまま)の萬の墓や犬の塚」(9番)など泉南各地の名所旧跡故事を詠み込んだ23番の歌詞からなる「泉南郡歌」を創作しました。この歌は大正期には泉南の小学校で

も唄われたようです。

喜太郎が最も熱中したのが煎茶でした。お茶は当時の文化人の嗜みでもあり、江戸期から泉南には煎茶が豪商や庄屋層に広がっていました。喜太郎と鉄斎はこの煎茶を通じて知り合ったものかと思われます。詳細は不明ですが、明治45年(1912)4月に煎茶の祖とされる売茶翁の没後150年追悼会を喜太郎が開催し、鉄斎は出席しなかったものの書画器物を贈って追悼会を支援し、喜太郎が会の様子を報告して供養の品を贈ったことに対する鉄斎の返書も奥家に残されています。明治40年(1907)に胃ガンにかかった喜太郎は度々鉄斎に相談し、その助言を入れて手術はせずに「自宅で悠々養生」することにしました。その後ハマヂサとインド・欧米の薬草を混ぜた薬を考案し、服用したところ回復し、報告を聞いた鉄斎は、父がガンで死んだこともあり「わしも欲しい」ということで毎年「靈剤」を贈っていたようです。奥家には、ハマヂサの画に飯沼 愨齋よくさい述『新訂草木圖説』から引用した説明文をつけた鉄斎の軸が残されています。

喜太郎は、大正4年(1915)に亡くなりました。鉄斎は「泉南二て奥翁がなくなりしをききてよめる」と題して「時にはあらずほとけ僧の國へゆくべしと帰らぬ旅に立ぞ悲しき」との歌を贈って、その死を悼みました。



煎茶の会の様子

(注) 明治・大正の南画家。神学、詩文、陽明学、仏典などを研究し学者として有名である。独自で類例のない高雅な画風は文人氣質がそのまま画面に表われている。

日常の中に音楽を！

ミュージックサロン

オンタイム 音時間

紀州街道のらんかん橋を少し大阪方面に行った海側に、素敵な施設があります。2007年10月に新感覚の音楽教室を目指して開設。大型防音室やイベントルームなど30坪を超える音楽空間は2009年には大阪府商店照明コンクールにおいて知事奨励賞を受賞されました。多種楽器を揃える音楽施設、音時間(社長平松靖子さん)を訪問させていただきました。

◆歴史ある建築物！

築約100年の総木造の建物は、外装・内装とも京都の寺社仏閣を手がける大工の手によるもので、昔は薬種問屋でお祖父さんの代には薬局として多くの方々に親しまれてきました。

建物をリフォームする時に外装はそのまま、内装はイタリアのカフェのイメージで音楽施設を作られることを考えられました。窓外からは日本蔵なども望め、夜間には中庭と蔵がライトアップされ自由度の高い空間照明でゆとりある音楽サロンとして人々が集う明るく温かい空間を作り出されています。

◆音楽を通して人との繋がりを！

平松さんご自身が幼い頃からエレクトーンに親しみ、現在は指導する立場におられます。エレクトーンは一人で完結する音楽なので、もっと人との繋がりを深めていけたらとこの施設の開設を考えられたそうです。小さな子どもたちが大人へと成長していく過程を見届ける場にしたいと言われていました。

◆多彩なレッスンコース！

音楽教室では現在15種類のコースを開講しています。エレクトーンをはじめピアノ、チェロやバイオリンなどの弦楽器やフルートやクラリネットなどの管楽器、声楽レッスンもあります。ドラ



岸和田市北町11-2
TEL 072-436-8671

ム教室は入会がキャンセル待ちになるほどの人気のレッスンだそうです。またレッスンだけでなく、防音の練習室、自由に使えるイベント施設もあります。入口ではジェラートも購入でき、ゆったりとした空間の中、大きな窓から見える歴史溢れる紀州街道を眺めるのも一見かと思えます。

◆ここで講師の先生から一言！

「バイオリンを教えています、温かい家庭的な雰囲気の施設でとてもレッスンし易いです。

音楽はテクニックではなく生活の中で息づくものですが、時にはレッスンで悩む子どももいます。そんな時にそっと声を掛け、励ましてくれるのが平松さん母娘です。また大人でもゆったりして話せる空間でもあります。

2階がイベント施設になっているので、発表会などがレッスン場と同じというのは安心感があり、着実に積み重なっている実感を味わうことができます。」

音時間さんでは秋に全教室合同の発表会を開催。昼間は子供たち。夕方は大人の発表会、軽食もあります。自由に聞きに行くことができます。

人との繋がりを求めて開設された音楽施設。

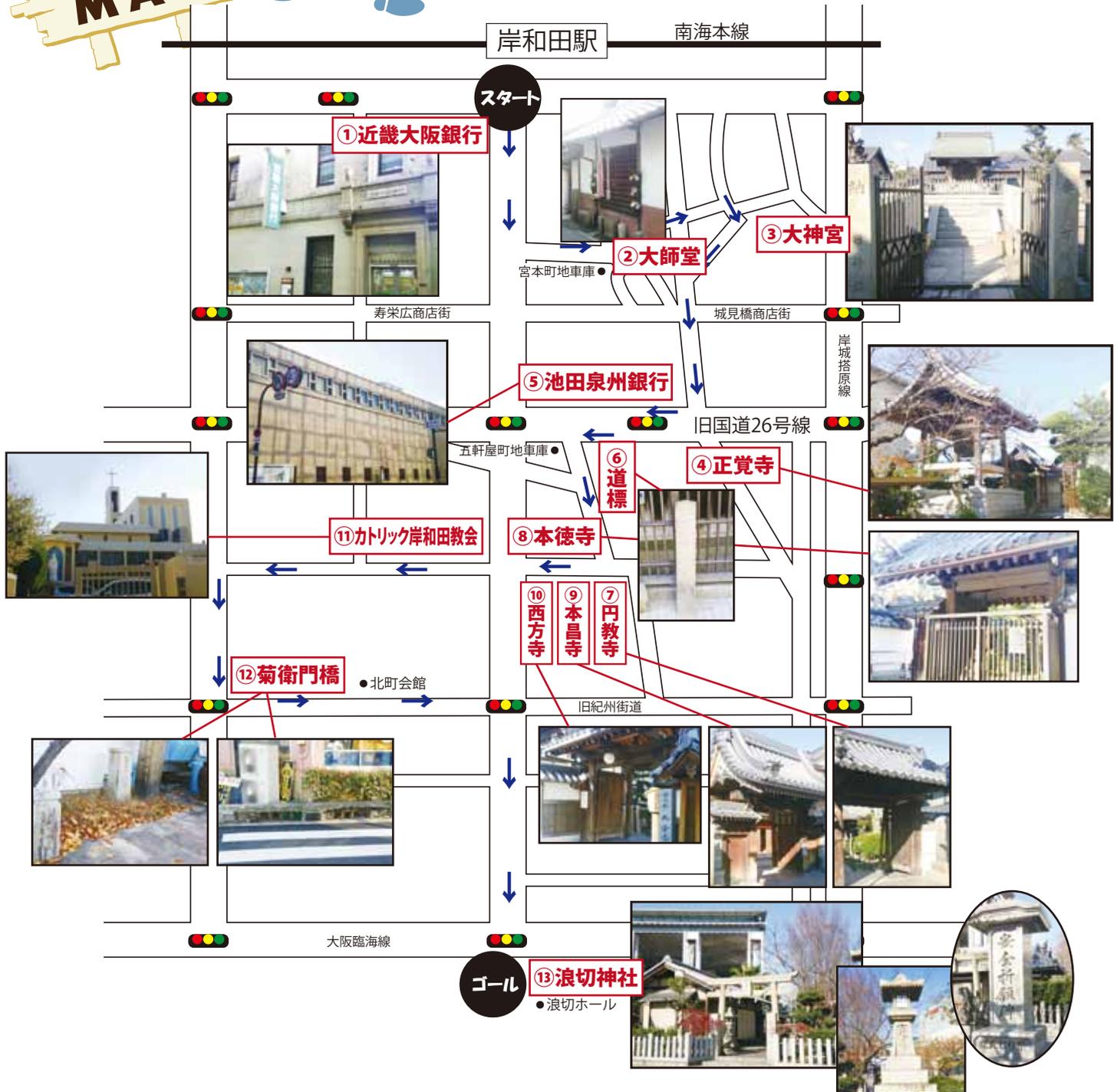
聞く楽しみから触れる喜びへと、そんなワクワクする気持ちになる音時間さんでした。

(取材・文 本郷元子・小島栄子)

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第23回 「岸和田駅から浪切ホールまでの裏道を歩く」



① 近畿大阪銀行

旧交野無尽金融株式会社岸和田支店の建物で、昭和初期に大林組が施工。同時代に建てられた本店(現交野市立教育文化会館)は国の登録有形文化財となっている。

② 大師堂

弘法大師空海を祀ったお堂。現在は有志が「大師講」を組んで管理し、高野山にも参拝している。

③ 大神宮

水神である「八大龍王」を祀った祠。門柱の「百姓中」は、宮本町がかつて「百姓町」だったことの名残り。

④ 正覚寺

もとは紀州根来寺(真言宗)の末寺だったが天正13(1585)年の兵火で焼失。その後、浄土宗に改め、文禄2(1593)年、玉誉上人が中興。このときから現在の寺号となっている。

⑤ 池田泉州銀行

現在の建物は昭和34(1959)年に泉州銀行本店として建てられたもの。設計は自泉会館を設計した渡辺節の門下生・村野藤吾で、全壁面が花崗岩張り、上部に横線のある連続窓と下部に格子の入った小窓を配した、独特の造形が特徴。

⑥ 道標

五軒屋町の旧家の前にある道標。「右和哥山道」「左わけめた道」と刻まれている。

⑦ 円教寺

慶長5(1600)年開山の日蓮宗寺院。岸和田藩主小出秀正の菩提寺として建立され、本堂の日蓮聖人像は秀正の持仏とされる。境内のソテツは樹齢500年から800年といわれ、昭和34(1959)年には市の天然記念物に指定。また、寛永17(1640)年に岡部宣勝が岸和田に入城した際、年貢軽減を願った強訴の責任を負って処刑された川崎久左衛門らの供養塔も建てられている。

ゴール

⑬ 浪切神社

● 浪切ホール

コンサートなどのイベントが多く開催され、同窓会などでも利用される「浪切ホール」。南海本線岸和田駅から一直線で到着しますが、その周囲には数々の名所や史跡もあります。今回は、ちょっと裏道を通って巡るコースをご紹介します。

理事 黒 犬 猛 夫

⑧本徳寺

戦国武将明智光秀の子、南国梵珪によって開かれたとされる臨済宗の寺院。もとは貝塚市鳥羽にあったものを、寛文2(1662)年、二代藩主岡部行隆の命で現地に移され、その際に寺号も現在のものに改められた。寺内には光秀の位牌と、肖像画としては唯一の「明智光秀肖像画」が所蔵されている。

⑨本昌寺

寛永11(1634)年、菟蔵院日受聖人によって開かれたとされ、徳川家康の側室である養珠院お方の方が師として仰いだ、心性院日遠聖人を第二祖とする。日蓮宗大本山本圀寺の旧末寺で、本尊は大曼荼羅。安永5(1777)年の本堂再建において、岸和田城内にあった建物の一部が移転されたといわれ、当寺の向かいにあった「妙法寺」(1894年に合併)の山号「蓮華山」の扁額は現存。揮毫は岸和田藩最後の藩主岡部長職が13歳のときの名筆として知られている。

⑩西方寺

浄土宗知恩院の末寺で、本尊は鎌倉時代の作とされる阿弥陀仏立像。また、元禄時代の作といわれる観音菩薩像と勢至菩薩像も安置されている。開山等については、元禄年間の火災で本堂や御影、記録などが焼失したため、不明となっている。

⑪カトリック岸和田教会

明治6(1873)年に大阪教区の第一号教会「川口教会」を訪れた求道者、森辰蔵が岸和田出身であったことが契機となり、岸和田の砂町(現在の北町)にあった土族屋敷を借りて明治11(1878)年、伝道を開始したのが始まりとする。大阪府下で2番目に設立された教会で、現在の聖堂は昭和47(1972)年に完成した4代目。敷地内には昭和6(1931)年開園の「聖母幼稚園」が併設されている。

⑫菊衛門橋

かつて流れていた「菊衛門川」に架けられていたことが橋名の由来。現在も片方だけ残されている欄干に、その名が見え、少し南側に行った北町会館内には、橋柱が保存されている。

⑬浪切神社

江戸時代に岸和田の港を浚渫した際、付近の住人が土砂を利用して建てたのを始めとする。主祭神は不動明王だが、住吉神、金比羅神、淡島神など、海に関係の深い祭神も祀られている。また、境内には岸和田だんじり祭の安全祈願碑も建てられ、毎年7月には安全祈願祭が執り行われている。

スタートは南海本線岸和田駅。浪切ホールに向かう駅前商店街に入り、アーケード内のすぐ右手にあるのが「近畿大阪銀行」です。そのまま海側へ進み、漢方薬局店の角を左折し、路地を入ると公園の向かいに宮本町会館と宮本町地庫庫があり、公園に沿って駅側に進み、三叉路の元鉄工所の角を和歌山方向に進むと「大師堂」が見えてきます。そのまま直進し、四辻を越え、道なりに左側に進んで突き当りを右折。すぐの急な坂を左折して下り、真つ直ぐいくと「大神宮」に到着します。もとの道を戻って坂を上り、左に曲がって道なりに。突き当りを左に曲がり、城見橋商店街を越えて旧26号線にたどり着くと、道路の向こうに「正覚寺」、右折して進むと「池田泉州銀行」の建物があります。銀行前の信号を渡り、五軒屋町地庫庫のわき道を入ると「道標」があり、そのまま、かじやまち商店街を海側へ行き、突き当りの三叉路を右折すると、そこは寺町で左側に「円教寺」、向かいに「本徳寺」、円教寺の隣が「本昌寺」、その隣が「西方寺」です。本通り商店街の広い道を越えて直進し、狭い路地を進むと「カトリック岸和田教会」が見えてきます。そのまま進んで広い道との交差点を左折して直進し、大きな仏像が目印の仏壇店の角が、かつての「菊衛門橋」です。角を和歌山側に進むと北町会館があり、敷地内に菊衛門橋の橋柱が置いてあります。そのまま進んで、大通り商店街を右折すれば、浪切ホールの建物が見え、前に鎮座しているのが「浪切神社」です。このあたりは、9月に行われる岸和田だんじり祭のメインともいえる場所。祭礼時には見物客であふれかえりますが、普段は比較的、穏やかな様子を保っています。浪切ホールやカンカンのショッピングセンターに行かれるとき、時間の余裕をつくって、紹介したポイントを訪ねるといいでしょう。

岸和田あ・ら・か・ら・と

「岸和田慢歩」を巡ってきました～!

理事 黒木 幸子

前号で募集し、ボランティアガイドの藤浪さんを含め12名で、Vol.51に掲載の「第21回岸和田慢歩」を中心に巡ってきました。岸和田駅前前で集合しバスに乗り、いつもの岸和田とは違う景色をはしゃぎながら見ていると、あっという間に沢峰へつきました。11月中旬とは思えない暖かさで、坂道を歩くと汗ばんでくる…そんな最適なお天気でした。

今回は慢歩に書かれているコースをさかさまに回り、寄り道をしながら、積川神社、井坂酒造場も訪ねました。「ここって岸和田？」って思うほど空気がきれいで、疎水が流れている水もとても澄んでいました。

積川神社では、宮司さんの計らいで予期せぬ素敵なものを見せていただきました。大切に保管されている3台の神輿と扁額です。現在のピカピカの神輿、江戸時代の神輿。そして淀君により奉納されたといわれる神輿。この淀君により奉納されたといわれる神輿の一番上につく鳳凰がその

隣に置かれていたのですが、私にはそれがとても素敵で印象に残りました。

また、二ノ鳥居と額町の遥拝鳥居に掲げられている扁額はレプリカで、本物は神輿と共に大事に保管されています。ずっしりと重みを感じるその扁額の文字…白河上皇の筆によるものだそうです。

最後に井坂酒造場の当主にお酒のお話を聞き酒蔵を見せていただき、お土産のお酒を買って帰路につきました。

帰りのバスの中、この企画は1回で終わらずにシリーズ化してほしいとの声が多々あり、私自身初めて会う方ともお知り合いになれ、岸和田に住んではいるけれどまったく知らないところを散策できて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

参加した人にしかわからない楽しさ、いっぱいですよ～。ぜひ次回ご参加を!



Ichigo-Ichien

家づくりが街づくり。 あなたの理想の住まいを考える



理事 堀野 和人

数年前、ハウスメーカーの設計職を離れて、岸和田市を中心とした地域の住環境を良くしたいと、住宅設計を中心とした一級建築士事務所を岸和田市内で開設しました。

ご縁あって各地でお話しさせていただく事も多く、設計者やエンドユーザーを対象にした、住まいに関するセミナーの導入部分では必ず「衣・食・住」について話をします。衣、食、住はどれも生活を行う上で基本となる事で、どれを疎かにもできません。

では「住」は「衣」「食」とどこが違い、どんな特徴があるのでしょうか？

「衣」は季節や用途に応じて着替える必要があります。体が成長すると服が入らなくなります。ファストファッションと呼ばれる服の多くは、流行のサイクルが短く、安くて大量に出回ります。一生ものという言葉は今や死語と化したのかもしれませんが。「衣」は、買い替える必要があり、サイズやデザインを選ぶ事ができます。

「食」は一日3食、毎日ほぼ決まった時間にします。今日のレストランやメニューが口に合わなければ、明日は店を変えます。ファストフードと呼ばれる安くて、早く、規格化された食事を提供する店も多く溢れています。「食」は、毎日消費し、店やメニューを選ぶ事ができます。

「住」は衣服のように、成長（家族構成の変更）や流行（外観のトレンド等）の変化に合わせて、簡単に住み替えや建て替えができません。家族数に合わせて、簡単に広したり狭くしたりできる事はなく、和風の家を洋風でモダンな印象を持つ家に変える事も簡単ではないでしょう。そして、食事のように消費サイクルが短くないので、一度建てると次の機会はまず来ないと考えられます。

そのような「住宅」の設計は一級もしくは二級建築士にしか許されていないので、設計品質は供給者側でしっかりと担保する必要があり、品質が担保出来ない設計は提案すべきではありません。では任せておけば大丈夫なのでしょうか？

新築住宅の多くは、お客様の意向に沿った「自由設計」として計画が進んでいきます。住宅供給者として、お客様の思いを大切にすることはとても重要な事ですが、同時に、服を選ぶ時のように鏡の前に立って、自ら良し悪しを判断できないお客様を、しっかりとコンサルティングできる能力が必要になります。特に、耐震や断熱性能のように数値で評価できない「住まいやすさ」を実現する為にはとても重要な事です。

では住まいやすさとは何でしょうか？多くの場合、リビング20帖、和室8帖など、部屋の種類と広さで間取りづくりをリクエストされますが、本来はその空間で何をやるのかでリクエストする事が大切です。それに似合う広さと部屋のつながりが実現できれば、住みやすい家になるわけですから、施主はそれを良く考え、設計者に伝える必要があります。

日本人は家族全員が和室（茶の間）で寛ぎ、食事して、就寝する際はテーブルを畳んで布団を敷くというスタイルで長く生活してきましたが、現在では洋風化が進み、リビングで寛ぎ、ダイニングで食事し、寝室で就寝するなど機能が分かれて多くの部屋が必要となってきました。でもダイニングは食事だけの空間ではなく、洗面室は洗濯機と洗面台を置くだけでは満足のいく空間になりませんね。他にやる事、したい事はたくさんあるはず。少し難しくなりましたね。この続きは又機会があれば。

私たち住宅業界に携わる者の使命は、末永くお客様に満足していただく住宅を提供することは当然ながら、地域の住環境向上に寄与し、後世に評価される優れた街並みを構築する事でもあるわけです。岸和田市は住んで良し、働いて良し、環境も良し。家づくりが町並みづくりの思いで今後も活動してゆきたいと考えます。

Event Report

アンケートからの技料

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

秋の名曲を観る会 岸和田能 能楽「融」の上演とお話 平成28年10月14日(金) 午後7時開演

大槻文蔵氏、赤松禎友氏、福王知登氏らによる能楽「融」を上演し、鑑賞された120人の方が幽玄の世界に浸っていました。
今回は、事前に「融」のあらすじや一語謡うワークショップを行ったため、「いつもより、よくわかり楽しめました」という皆さんの声がありました。



〈皆さんの声〉

- ◆杉江能楽堂をこれからも、ずっと保存してください。
- ◆人間国宝になられた大槻文蔵氏の演技に感銘を受けました。
- ◆素晴らしい演目、演者、能舞台と心あたったスタッフの方に感動しました。
- ◆杉江能楽堂で開催された能に、今までずっと欠かさず参加していますが、今回が一番良かったように思います。
- ◆毎年この日を楽しみに致しております。いつもながら、とてもよいひとときを過ごさせて頂きました。

文化の日祝典記念事業 「芸術の秋 煌びやかな響演」 平成28年11月3日(木・祝) 午前11時45分開演

岸和田文化事業協会主催、第7・8・9回のフレッシュレミアムコンサートで最優秀賞を受賞された方々による若さあふれるコンサートでした。



岸和田文化事業協会 会員展 平成28年12月2日(金)～12月4日(日)

昨年に続き2回目の会員展でした。会員外の方も参加したワークショップもあり、和気あいあいの雰囲気でした。次回は、よりたくさんの方の参加をお願いします。



第49回自泉フレッシュコンサート ～名曲をたずねて～ 平成28年12月2日(金) 午後6時30分開演

岸和田文化事業協会では、音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始める新人演奏家に、演奏の場と技術を磨く機会を提供しています。
今回は、入場者がやや少なめでしたが、3人の若い演奏者の懸命さが感じられました。

〈皆さんの声〉

- ◆オーボエのソロ演奏、聴く機会がなく今回初めてでしたがとても素晴らしい。
- ◆少人数でしたが、上手に弾いたり、吹いたりしているのが聴けて心が安らぎました。
- ◆こじんまりしたホールですが、感動しました。間近でゆっくり聴けてよかったです。
- ◆若さあふれる演奏で、大変良かった。
- ◆久しぶりに間近で、生の演奏を聴きました。非常に良かったです。20数年ぶりの自泉会館にも感動しました。
- ◆間違わずに弾き切るのが大変だとよくわかるコンサートでした。

あわてんぼうのクリスマスコンサートin自泉 平成28年12月3日(土) 午後2時～・午後4時30分～ スウィングアイドルジャズオーケストラ

ちょっと早めのクリスマスでしたが、知っている曲が多く、皆さん楽しんでいました。また、一緒に歌いかけたという感想もありました。

〈皆さんの声〉

- ◆皆様の息の合った演奏が良かったです。JAZZを聴くのが、昔から大好きです。これからも聴ける機会があれば、ぜひ聴きに行きたいです。
- ◆とても心地良く聴かせて頂きました。ステキな時間をありがとうございました。
- ◆生演奏っていいですね。知っている曲がほとんどで、とても楽しかったです。又、参加したいと思えます。
- ◆スウィングが効いて、とても心地良かったです。一緒に歌いかけたけど～～
- ◆何曲も本格的な音楽を聴けて、「あわてんぼうのクリスマスコンサート」すごく楽しめました。
- ◆素晴らしいサウンドに再会しました。Tp, Ts, Asをはじめ、美しい音と個性に安らぎを感じました。



岸和田風物百選展

前期 平成28年12月9日(金)～12月11日(日)
後期 平成28年12月16日(金)～12月18日(日)

市制施行60周年記念事業で公募し、その後岸和田市が寄贈を受けた作品約60点を展示しました。描かれた場所が30年を経た今日のように変化しているのか、現存する所だけです写真撮影し、併せて展示しました。

寒い日もありましたが、250人を超える入場者があり、皆さん懐かしがって鑑賞していました。

岸和田文化事業協会の事業 Information

野澤松也 創作浄瑠璃 新春弾語りライブ

日時：平成29年1月27日(金) 午後7時開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

入場料：前売 2,000円 (当日500円増)

小学生以下 前売・当日 500円

出演者：野澤松也(歌舞伎義太夫三味線奏者)

第9回フレッシュプレミアムコンサート 最優秀賞受賞記念

森田美穂クラリネットリサイタル

日時：平成29年3月26日(日) 午後2時開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

入場料：前売1,500円 (当日200円増)

第6回自泉ジュニアコンサート

JISEN JUNIOR CONCERT

平成29年2月26日(日) 午後2時開演 (開場30分前)

会場 岸和田市立自泉会館ホール

出演者 2月4日(土)のオーディションで選ばれた方

入場料 無料 (当日先着100名まで)



第50回自泉フレッシュコンサート

～春の風に誘われて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして
歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日時：平成29年4月7日(金) 午後6時半開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：未定

入場料：一般前売1,200円 (当日200円増)

会員前売1,000円 (当日200円増)

第10回フレッシュプレミアムコンサート

未来へ～ここから～

平成28年度自泉フレッシュコンサート出演者の
中から推薦された方々によるコンサート

日時：平成29年3月25日(土)

午後5時開演

会場：マドカホール(岸和田市立文化会館)

出演者：大村 優希恵 (フルート)

亀井 貴幸 (ギター)

柴田 由貴 (ヴァイオリン)

長島 加奈 (オーボエ)

中道 亜莉沙 (ピアノ)

成宮 彩華 (ピアノ)

松木 栄理 (ソプラノ)

吉里 瞳子 (ソプラノ)

入場料：前売1,000円 (当日200円増)

■お問い合わせ

岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成29年度(平成29年4月～平成30年3月)

会員募集

年会費	個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
(入会費不要)	家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
	(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は
口座番号 00970—9—28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine vol.54

発行：岸和田文化事業協会

発行日：2017年1月15日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

本郷元子・黒木幸子・小島栄子
歯黒猛夫・藤田保平・堀野和人

編集後記...

あけましておめでとうございます。早速の私事で恐縮ですが、昨年は「曳行責任者」という重責を担い、余裕のない日々を過ごしてきました。ただ、だからこそ、祭りに関する様々なことを、知ることでもできました。そんな一年を経て、今年は新たな気分で過ごしたいと考えています。新年もよろしくお願ひ申し上げます。(歯 黒)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索